



善正寺だより

掲示板法話

お浄土があつてよかつた

お浄土は苦を超える道を開く

「逢うが別れの初めなり」とはよく聞く言葉ですが、その別れがある日、突然やってくる、ということを感じて感ぜさせられました。

私どもの寺の門徒総代を長く務めて下さった方が緩和ケア施設に入られた、と聞いたのでふとお訪ねしたので、病院に併設された緩和ケア施設は、基本的に病気を治そうとせず、患者さんの身体の痛みを和らげるだけの施設ですから面会自由で、気楽におしやべりもできます。

「どんな具合ですか?」と尋ねると、「ええんさん、これ見て」と面会ノートに差し挟んであったメモを取り出して見せてくれました。それは「人生の終着駅にきたけれど、迎いの車未だ来たらず」という五七五七七の言葉から短歌の類です。この人は、この施設への入居が人生の終着駅にきたのだという覚悟をしていることを歌の形で示してくれたのです。

「あなたの心持ちよくわかつたよ。長年聴聞して後生の一大事の覚悟が定まっているのだね。お浄土があるか



〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

ら、いつお別れの時が来ても心配ないのですね」というと「うん」とうなずいて微笑みを浮かべられました。「こんなに身体が細くなっても、後生の一大事の覚悟を歌に詠めるとは素晴らしい。二年前の大遠忌には立派な立華を立てて下さってケアマネージャーさんも感心して下さいましたね。有難う。有難う。また、歌ができたなら「善正寺だより」に載せるから教えて下さい。面会にくるからね。そんな会話を交わし、手を握り合いながら再会の約束をしました。まだ半年、いや来年の心正月を迎えられるかもしれないと心中思われましたので、僅か五日後に別れの時が来るとは大きな驚きでした。「会いに行つてよかつた、話ができよかつた。人生の別れは突然やつてくる」と痛感しました。でも「人生の終着駅にきた」という重い言葉を淡々と語り合える仏縁があつたからこそ、落ち着いて言葉を交わすことができただけです。もし、「死んだらおしまい。この世が全て」という行き止まりの人生観の人ならばこれほど落ち着いて

安らかな話はできなかつたに違いありません。お浄土があつてよかつた。お浄土は、病苦、死苦を超える道をこの人生に開いて下さつたのです。

敬告

★伊崎栄一様(3月21日往生、91歳、合掌)元門徒総代、立華献納者

カンパありがとうございます! M様、Y様他よりお志、切手等頂戴。有難うございました。



☆行事ご案内

◇善正寺門信徒総会

5月20日(日)午前10時

真宗宗歌、門信徒会長、門徒総代、住職挨拶、
29年度行事・決算・監査報告、30年度行事計画、
予算案審議、最近の宗教事情と寺院活動、運営上の課題等、
恩徳讃、昼食用意、新旧行事交替式、出欠票、委任状回収、

◇一縁会テレホン法話 Ⅷ 059-354-1454 三重組有志の僧侶・坊守、若院らが週替わりで3分法話、本『参らせてもらうでね』(自照社刊)発売中

◇絵手紙教室 5月8日(火)午前10時 32回目川崎光子先生 庫裏食堂で。作品は小杉郵便局にも展示

◇キッズサンガ5月5日(土)午後4時。鐘撞きは毎日夕方5時、

◇三重組十三日講: 5月13日午前、午後、生桑・常延寺様

◇三重組仏教講習会三日目、善正寺が会所! 世話方様、行事様お手伝いよろしくお祈りします。

6月16日(土)午前・午後、講師:北島晃融師

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報閲覧。
毎日更新ブログ「住職と坊守のつれづれ日記」好評。開設丸9年9か月で
26万5千訪問、一日平均80人程、悩み相談、大歓迎! 即返信

◇新納骨堂: 後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事のお場でお困りの方; 本堂使用可。寺にご相談下さい。

写真アラカルト



坊守スケッチ

雑巾の使命と私



新緑の季節、本堂の縁側を拭くと、雑巾が真っ黒から黄緑色に変色します。花粉の所為だと気付かれます。屋外の縁側は、風雨にさらされて予想外に汚れがひどいものです。雑巾はいつも真っ黒。靴下に汚れが付いたまま本堂の畳に入るのは、仏様に申し訳ないような気持ちになり、お参りの前には、私はせつせと縁側拭きに励みます。

ところで仏教詩人の檀本栄一氏は「雑巾は他の汚れを一生懸命に拭いて、自分は汚れにまみれている」と言いました。

雑巾の役目は仏様の働きに似ていません。仏様も私達の心の垢を、黙々と拭きとってきれいにして下さいます。

次に詩人で牧師の河野進氏の二つの詩を紹介します。

『雑巾』
「困った時に思い出され、用が済めばすぐに忘れられる 雑巾。台所の隅に小さくなり、報いを知らず、朝も夜も喜んで仕える。雑巾になりたい」

『使命』
「真っ黒い雑巾で、顔は拭けない。真っ白いハンカチで、足は拭けない。用途が違うだけ。使命の尊さに変わりが無い。ハンカチよ、高ぶるな。雑巾よ、ひがむな」

寺に43年住む坊守でありながら、残念ながら私は『雑巾』になりきれない

い自分に気づかれます。いくら年齢を重ねても他人を羨み、比較して自分の立場を嘆いて不満と愚痴が出ます。

「私だつてたまにはきれいなハンカチになりたい」と愚かさを露呈します。自分の心の垢も満足に拭ききれないのに、他人様の垢まで拭こうとは、未熟な私にはおこがましいことです。

人間には夫々の役割があるように、坊守の使命は決してハンカチではなく、雑巾であることを、二つの詩によって学びました。報いを求めず、日々真っ黒になるまで仕える雑巾。決してひがむことなく、世間から賞賛やスポットライトを浴びることなく、ひたすら黙々と自分の使命に精進する坊守になりたいと思えました。

寄稿

- ・四日市市・釋妙水
- ・ブロッコリー摘み取る毎にヤゴ育ち
- ・そら豆の花風に遊ばれ右左
- ・競い合い背比べする葱坊主
- ・花びらを追いかけ校門くぐるなり

四日市市・釋清風

- ・東風吹けば祝う風船空高く
- ・花堤老いの棲み処も流れゆく
- ・はいチーズ笑顔弾ける入学児
- ・ピカピカの靴の背な花吹雪



☆若院夫婦の『青自な毎日』その41

4月長男が小学校に入学し、長女が幼稚園に入園しました。長い春休み中、若院は足の具合が悪く、外出できませんでした。子供達はいささか退屈気味。私一人の引率で二人の子供を連れて電車であちこち社会見学をしました。

まずは奈良の大仏へ。長男は歴史漫画の影響で大仏が大好き。「高さ15mの奈良の大仏より大きい大仏を、僕は作りたい」と意気込み、図書館で本を借りて事前学習。3月終わりに奈良へ行こうやく実現しました。子ども達は巨大な大仏と、人懐こい鹿と、外国人観光客の多さに圧倒されました。他の寺院や美術館などを見る余裕もなく、大仏だけで満足して帰宅しました。

次の社会見学は名古屋テレビ塔へ。長男は男の子気質なのか、大きいもの高いものがお気に入り。名古屋は奈良に比べて短時間で行けます。沢山の乗降客がいる名古屋駅や地下鉄駅で、子供とはぐれないかとドキドキしました。名古屋テレビ塔は展望室が高さ90m。長男は更に上の高さ100mの屋外展望台へ行きたがりました。そこには桜の木が植えられ、強風の中、桜吹雪が舞ってとても綺麗でした。その後は、オアシス21の「水の宇宙船」を見学して帰路につきました。

後はプール通いをした程度で、勉強もなく自由でのんびりした春休みがようやく終わりました。社会見学で気付いたことは、長男が6歳になり電車

質が必要なこと。小さな大人の階段を上ったような気持ちでした。(若坊守)

ホットニュース

◇2年前の「法要で立華を寄進された元総代の伊崎栄一氏が、春彼岸に自宅報恩講を勤めた夜、家族に見守られてご往生。稚児行列が通る道に「他人事が我が事となる浮世かな」という句を自ら掲示。デイサービス先でも聴聞で培った有難い言葉を紹介して喜ばれました。寄稿にも釈俊悦として登場。仏法第一の家庭生活、寺や社会へのご報謝、叙勲の荣誉等、誠実なお人柄に多くの人がお育てを頂きました。

善正寺・平成30年度今後の主な行事

- ※5月20日(日)午前「善正寺総会」
- ※6月16日(土)午前・午後「三重組仏教講習会」北島晃融師・善正寺於
- ※8月15日(水)午前8時半「孟蘭盆会(うらぼんえ)法要」善正寺本堂
- ※8月18(土)19(日)「秋季永代経」(加藤正人先生、桑名)
- ※9月23日午前・午後「小杉町追悼法要」(光念寺様於)
- ※11月2日・3日「報恩講」守快信先生(滋賀)2日11時お非時あり
- ※11月23日午前「秋勧進」
- ※12月1日(土)午前お内仏報恩講

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」293号をお届けします。◇早いスピードで桜前線が駆け抜けた。温暖化で季節感が微妙に変化。地球環境の未来への警告ではないか?◇「他人事が我が事となる浮世哉」

戦前に発行された吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』が、歴史的な名著として人気沸騰中です。私も中学時代に読みました。か、再度読み返すと以前に気付かなかった人生の本質を知らされます。主人公潤一君のニックネームはコペル君で命名者は叔父さん。由来はコペルニクス。天動説から一転地動説を証明した人物です。地球を自分に、広い宇宙を世間の人々に置き換えてみて下さい。自己中心的な考え方から脱皮して、広い世間を見回すと、自分も世の中を構成する一分子に過ぎないことが納得できます。人のご縁の縦系と横系が複雑に絡み合って、今の私が生かされているのです。この真理に目覚めるか否かで、人生の歩み方が違います。コペル君は裕福な家庭に生まれましたが、父親を早く亡くして叔父さんが頼りになる相談相手。友情、イジメ、勇気、歴史等幅広い分野で語り合い、二人の往復書簡で物語は展開します。この本が大ヒットした背景には漫画化されて若者にも受け入れられたことです。親も先生も誰も面と向かって教えてくれなかったことを、この本によって生きるヒントを学びました。私でさえ「あなたは高齢化時代をどんな心構えで生きてますか？」という難問を突き付けられたような気がします。「自問自答を繰り返す」から、信じる道を日々精進するだけしか今の私の答えです。5月20日は善正寺門信徒総会です。お弁当を用意します。また6月16日(土)午前・午後、三重組仏教講習会(三日)が善正寺で開催。皆様の「ご参詣を心よりお待ち申し上げます」。

合掌 平成三十年五月 善正寺坊守様